

## Oscar Wilde における愛の形象

—SALOME のキャラクターゼーションと構図—

中島恵子

(大阪成蹊女子短期大学助教授)

『サロメ』にはオスカー・ワイルドの多くの作品に描かれた「愛」のテーマが凝縮された形で展開する。ワイルドにとって、驚異の年 (annus mirabilis) となった1891年、陰鬱なロンドンから逃れて解放された芸術の都パリで執筆されたこの作品には作者の愛の遍歴である、ホモ・セクシュアリティ、ナルシズム、愛のための愛、そして神などがシンボライズされている。こうした要素が総合され造形された『サロメ』には愛の形象をとおして表現される、芸術・美・創作のエネルギーが満ちている。

世紀末のファム・ファタールのシンボルとなったワイルドのサロメは、純粋さと魔性、やさしさと残忍さを有する両義的なイメージから構築されている。ヤヌスの顔を持つアルテミス、あるいはヴィーナスを想起させると共に、両性具有的 (androgynous) でモダニスティックな女性像をも現出させている。芸術性・演技性を軸に愛の形をテーマにしたヒロインの系譜を迎れば、サロメの原型としてシビル・ヴェイン、レイディ・アルロイがあげられるが、彼女たちは芸術とかかわりながらその芸術性を完成することができなかった。これらのヒロインたちが到達することのできなかった美と芸術の極致にサロメは位置する。多様な読みの可能性を秘めたサロメの肖像はワイルドが理想とした芸術的創造力の謎を収斂させたワイルド自身の仮面であると同時に、時代に挑戦した作家の殉教の姿をも映しだしている。

登場人物たちはフーガ形式で愛の構図を完成させる。ヘローディアスの小姓がナラボスを追ひ、ナラボスとヘロドがサロメを追ひ、サロメがヨカナーンを追ひ、そしてナラボスが小姓を無視し、サロメに無視される。ヘロドを無視したサロメはヨカナーンに無視される。ナラボス、サロメ、預言者であるヨカナーンもナルシストであり、ヘロドとヘローディアスまたはサロメは共にインセスト、ヘローディアスがヨカナーンに、ヘロドがサロメに、そしてサロメもまたヨカナーンにハラスメントを行っている。

サロメと彼女の愛の対象であるヨカナーンは対照的であると同時に一致するという両義的な位置関係をなしている。サロメは純粋さと virginity、淫乱なヘローディアスの血、義父ヘロドの残忍性、異境の美神、またヨカナーンは無感覚、盲目、預言者、神、宗教を

背景にした謎めいた誘惑者として描かれる。そして彼らの男性と女性の位置が逆転し、ふたりとも中性的でアンドロジナスな様相を帯びている。

美神サロメへの殉教者ナラボスの血が凄惨な儀式の供物のように床を彩り、その上で演じられるサロメの七枚のペールの踊りは作品におけるブラックホールのように爆発的エネルギーを内包している。魔性を帯びたサロメの勝利はアモラルな芸術と美の、宗教と無感覚、性の嫌悪をあらわすモラルへの勝利であった。ワイルドは『嘘の衰退』のなかで「美を見るとき、そのときにのみ、ものは生まれてくるのだ。」と述べている。サロメの「見る、見られる」ことへの執拗さは不毛の空間に対する、美と芸術への誘いであり挑発だった。

月と同化し、その想像力の化身であるサロメは、ワイルドの創造力の化身でもあった。サロメの

If thou hadst looked at me thou hadst loved me. Well I know that thou wouldst have loved me, and the mystery of love is greater than the mystery of death.

というセリフはまさにワイルドの創作基盤を表している。青白い月から血のように真っ赤な月への変貌, virginity without virginity, やさしさと残酷性, そうした変容のダイナミズムおよびキャラクターの持つ両義性が織り成す劇の展開を通してワイルドはその創作の秘密を観客＝読者に現した。『サロメ』に顕現した愛の形象は、ワイルドの創造力をエロスの衣装をまとった芸術愛 (love of art) として、エネルギーの源泉である原始の破壊と創造の血の儀式に昇華した形式において具現したものであった。

ワイルドの作品における死者たち (殉教者) から構築されたサロメは、万華鏡のように時代を越えた多くの顔を映しだしている。ユディット、ヘローディアス、さまざまなサロメ、パリの踊り子たちとドゥミ・モンデーヌ、ヴィクトリア朝の家父長制に反乱を企てた「家の中の天使たち」、両性具有的のパワーを秘めた新しいイヴ (女) たち。そして、モダニスティックな人間性開放をうたったニュー・ヘドニズム、冷たく無感覚な宗教的束縛を打ち破った芸術的アナーキズム。自己のヴィジョンを表現するため時代に立ちむかった芸術家ワイルド。それらをミラーボールのように反射させる鏡、影の世界の光源体である月の様相を、このサロメの肖像はたたえていると言えるだろう。